

I 教育方針

教育理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

1 教育目的

看護師として必要な知識及び技術を教授し、合わせて豊かな人間性を養い、社会に貢献し得る優れた人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 課題解決に向けて考え抜く力を発揮し、何事にも主体的に取り組む能力を養う。
- (2) 社会の動向を敏感に捉え、看護に求められる役割を果たすことができる能力を養う。
- (3) 人間関係を形成するコミュニケーション能力、及び看護の実践に必要な臨床判断能力を養う。
- (4) 広い視野と柔軟な思考を持ち、人間を多様な価値観を持つ生活者として、理解する能力を養う。
- (5) 対象の健康と生活を守るために、根拠に基づいて判断し、その人に応じた看護を実践できる。
- (6) 実践と省察を繰り返し、看護を追求できる能力を養う。
- (7) 豊かな感性を育み、常に看護専門職としての責任と高い倫理観に基づいたより良い行動ができる能力を養う。
- (8) 保健・医療・福祉の連携において他職種の独自性を理解し、チームの一員として協働できる基礎的能力を養う。
- (9) 看護専門職として探求心を持ち、持続的に自己研鑽ができる基礎的能力を養う。

3 ディプロマポリシー

- (1) 課題解決に向けて考え抜く力を発揮し、何事にも主体的に取り組むことができる。
- (2) 社会の動きを敏感に捉え、看護の果たすべき役割を自覚できる。
- (3) 人間関係を形成するコミュニケーション能力、及び看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけることができる。
- (4) 広い視野と柔軟な思考を持ち、根拠を基盤とした判断と省察をもとにその人に応じた看護実践ができる。
- (5) 豊かな感性を育み、常に看護専門職としての責任と高い倫理観に基づき、より良い行動をとることができる。
- (6) 保健・医療・福祉の連携において多職種の独自性を尊重し良好な人間関係を保ちながらチームの一員として協働できる。
- (7) 看護専門職として探求心を持ち、継続的に自己研鑽ができる。

4 人間・環境・健康・看護・教育の概念

| | 概 念 |
|-----|---|
| 人 間 | <ol style="list-style-type: none"> 1 身体的・精神的・社会的・霊的側面をもつ統合された存在である。 2 欲求をもち、常に充足させるべく努力する。 3 受精期から死までのライフサイクルをもち、成長・発達し続け成熟する。 4 あらゆる可能性を秘めた存在であり、学習と経験によって引き出される。 5 変化する環境と絶えず関わりあう生物心理社会的生物である。 6 個別性・共通性を有し、多様な価値観をもち、尊敬され尊厳を保つ権利を有する存在である。 |
| 環 境 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生命と発達に影響するあらゆる外的条件と影響物であり、周囲に影響をあたえる。 2 内部環境は、人間の身体内部に備わった力で免疫機構や代償機能をいう。 3 外部環境は、自然的（物理的・生物的・科学的）環境、文化的（社会的・人的）環境をいう。 4 社会とともに、人間と相互に影響しあい変化する。 |
| 健 康 | <ol style="list-style-type: none"> 1 最良の状態から死に至るまでのあらゆる連続した段階があり、常時、流動しているものである。 2 個別的なもので、人がそれぞれ自らつくるものである。 3 円滑な生活を維持するための目標である。 4 主観的・客観的なものであり、人生の目標・幸福を達成する手段である。 |
| 看 護 | <ol style="list-style-type: none"> 1 人間を対象として、対象との相互関係によって成り立つ過程である。 2 あらゆる成長発達段階にある個人及び集団、すべての健康段階にある人、地域から施設内に至るあらゆる場に生活する人々を対象とする。 3 すべての健康段階に応じて、生命力の消耗を最小にするように生活過程を整え、対象の意思決定を支える。 4 科学的根拠に基づいた的確な判断を行い、技術を活用して援助することである。 5 生命・人間としての尊厳及び権利を尊重し、保健医療福祉システムの中で、他職種と協働して独自の機能と役割を担う。 |
| 教 育 | <ol style="list-style-type: none"> 1 人がひとりの人間として成長するように意図的に働きかけることである。 2 学習者と教育者の相互関係の中で、主体的に共に成長する過程である。 3 人的・物理的環境を整え、学習者がもつ潜在能力を最大限に発揮できるよう援助することである。 4 人がよりよく生きられるよう、新たに能力を身につけさせる活動である。 |

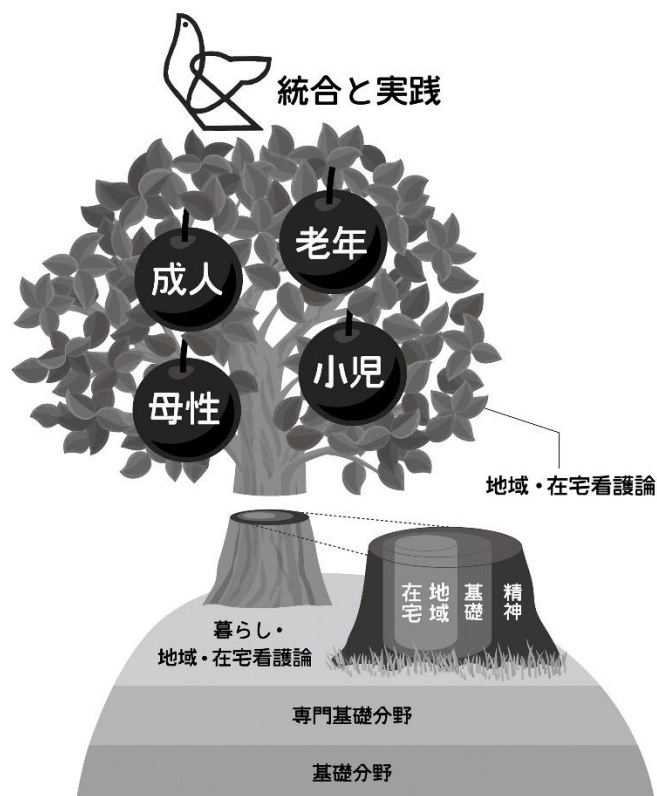
II 教育課程

1 教育分野

教育分野は、次の3つです。

- (1) 基礎分野 人と社会の理解と、科学的思考、ICTの活用、人間関係形成の基礎を学習します。
- (2) 専門基礎分野 人体の構造や機能、疾病の成り立ち、保健医療制度の基本を学習します。
- (3) 専門分野 各看護学の基盤となる基礎的理論・技術・倫理について学習します。
基礎分野・専門基礎分野の学習を基盤として、地域・在宅、成人、老年、小児、母性、精神看護学の対象・目的・方法について学習し、看護が実践できる能力を身につけます。それらの学習を活用して、臨床判断の基礎的能力を養い、実務に即した看護実践できる能力を身につけます。

2 構成図



基礎分野と専門基礎分野は2層の土台と位置付ける。

基礎分野は看護に携わる者として、人間性を豊かにするとともに、ものの見方・考え方を広げ、看護の対象である人と社会を理解するための土台と位置付ける。

専門基礎分野は基礎分野の学習を発展させ、人間の体の構造・機能、疾病や治療について系統的に学ぶ。また、保健・医療・福祉に関する基本的概念やサービスの在り方を学び、広い視野から看護を学ぶため、基礎分野の上に位置付けた。

地域・在宅看護論は看護の対象が地域で生活する人々であることから、まずは地域を知る・地域での暮らしぶりを知るために土台が積み重なったさらに上に位置付けた。その土台から地域で生活する人々とその家族を理解し幹へとつながる。さらに、地域における看護や健康の保持増進及び疾病予防に関する看護など、多様な場での看護も学ぶことで、いずれ枝となり葉となり専門領域全体を取り囲むような位置づけとなる。

土台と枝葉をつなぐ幹の構成は、幹の中心に地域・在宅看護論を核として、基礎看護学が囲い、これまでの学習を発展させ看護に必要な基礎的知識を深め、技術を身につける。さらに精神看護学が囲い、すべてのライフサイクルにある人間の精神の健康援助を学ぶことを意として全体に関わる領域とした。

これまでの学びが枝となり葉となり、専門分野（成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学）である実が結実し、対象の状況に応じた看護の方法を学び、看護実践能力の向上を目指すことで大きく育つ。

これらの豊かな土台から栄養となる知識・技術・態度を学び大木となり、瑞々しい葉と大きな実がなる。その大木の頂点に今にも羽ばたきそうな雷鳥がいる。この雷鳥は当校の校章であり、看護の統合と実践である。これまでの集大成として学んできた知識・技術を発展させ、臨床判断を行うための基礎的能力を養い、より実践に近い形での看護実践力を身につけ羽ばたいてほしいという願いが込められている。

3 カリキュラムポリシー

(1) 社会の動向と看護師に求められる役割

看護を取り巻く環境や集団・社会について理解を深めるために、基礎分野では「社会学」、社会の動向と健康を考えさせるために、専門基礎分野では「社会福祉」「公衆衛生学」「関係法規」を学ぶ。地域で暮らす対象の健康支援、そこから視野を広げ国際的な場で必要とされる看護の役割を学ぶために「保健医療論」「地域保健活動論」をおく。専門分野では社会と地域に求められるニーズと看護を取り巻く状況について「看護学概論」「地域・在宅看護各論Ⅰ」「災害看護・国際看護」で学ぶ。

(2) コミュニケーション能力・臨床判断能力

人と人との相互作用を学び、よりよい人間関係形成のため基礎分野では「心理学」「コミュニケーション理論」「人間関係論」「教育学」、専門分野では「基礎技術Ⅰ」をおく。コミュニケーションの実践の場として「基礎看護学実習Ⅰ」を学ぶ。国際人として対応できるように「外国語Ⅰ」「外国語Ⅱ」を学び、また多文化共生についても理解を深める。臨床判断の基礎として「成人看護学各論Ⅵ」「成人看護学実習Ⅱ」を学び、さらに「成人看護学実習Ⅲ」で臨床判断の実践を学ぶ。

(3) 人間理解

基礎分野において「文化人類学」で多様な文化を学ぶ。さらに、人間理解の為に専門分野で「看護論セミナー」「地域・在宅看護概論」「成人看護学総論」「老年看護学概論」「小児看護学概論」「母性看護学総論」「精神看護学総論」「地域・在宅看護各論Ⅲ」を学ぶ。「地域・在宅看護論実習Ⅰ」では地域で暮らす人々や多様な看護の場を学び、さらに、「老年看護学実習Ⅰ」では、地域で暮らす高齢者のその人らしさや高齢者を尊重した態度を養う。

(4) 看護の実践と省察

1年次に看護実践の基盤となる「解剖学」「生理学」「生化学」「看護人間工学」「看護形態機能学」「病理学Ⅰ～Ⅴ」「微生物学」「薬理学」を専門基礎分野で学び、専門分野で「基礎技術Ⅱ～Ⅶ」「臨床看護総論」「成人看護学各論Ⅰ」「老年看護学各論Ⅰ」を学ぶ。さらに2年次からは「栄養学」「臨床薬理学」「基礎技術Ⅷ」「地域・在宅看護各論Ⅱ」「地域・在宅看護各論Ⅳ」「成人看護学各論Ⅱ～Ⅵ」「老年看護学各論Ⅱ」「小児看護学各論Ⅰ～Ⅲ」「母性看護学各論Ⅰ・Ⅱ」「精神看護学各論Ⅰ・Ⅱ」を学ぶ。「基礎看護学実習Ⅱ」で看護過程を展開し、その人の日常生活援助の実践を行う。さらに、セルフマネジメントを必要とする方への看護実践として「成人看護学実習Ⅰ」、老年期にある対象の健康保持増進および疾患の悪化予防・回復への援助を「老年看護学実習Ⅱ」で学ぶ。多様な人々の看護実践として「地域・在宅看護論実習Ⅱ」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」において学ぶ。

(5) 豊かな感性と倫理観

現代社会において重要な情報の取り扱いやその倫理上の課題を学ぶために専門基礎分野に「情報リテラシー」「倫理学」をおく。また豊かな感性を育むために課外授業として「華道」をおく。さらに専門分野で「安全・感染管理」で倫理的課題を具体的に学び「緩和ケア」ではスピリチュアルケアを学ぶ。

(6) 多職種連携・協働

多職種の特徴を活かしながら、対象の目標達成、問題解決に向けてより良い方法を検討し実現させるため「地域・在宅看護各論Ⅴ」を学び、チームとしての力を養う「保健体育」「統合技術演習」を学ぶ。「統合と実践実習」では継続看護やチーム医療を学び3年間の学びを統合する。

(7) 探求心と自己研鑽

基礎分野では高等教育において主体的に学ぶ姿勢を養うため「生涯学習入門Ⅰ」、看護専門職としてのキャリア教育として「生涯学習入門Ⅱ」を学ぶ。また、自身の考えを論理的にまとめる、他者へわかりやすく伝える力を育むために「論理学」「情報科学」を学ぶ。専門分野では「看護管理」「統合技術演習(研究)」において自己研鑽できる基礎的能力を養う。

4 カリキュラムデザイン

| | 社会の動向と看護師に求められる役割 | コミュニケーション能力 臨床判断能力 | 人間理解 | 看護実践と省察 | 豊かな感性と倫理観 | 多職種連携・協働 | 探求心と自己研鑽 |
|-------------|---------------------------------------|---|---|--|-------------------------------|--|---------------------------------------|
| 3 年 次 | 関係法規 保健医療論 地域保健活動論 災害看護・国際看護 | 外国語Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ | | 臨床薬理学 地域・在宅看護各論Ⅳ 精神看護学各論Ⅱ 地域・在宅看護論実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 | 安全・感染管理 緩和ケア | 保健体育 地域・在宅看護各論Ⅴ 統合技術演習 統合と実践実習 | 情報科学 生涯学習入門Ⅱ 看護管理 統合技術演習(研究) |
| 2 年 次 | 社会福祉 公衆衛生学 地域・在宅看護各論Ⅰ | 教育学 外国語Ⅰ 成人看護学各論Ⅵ 成人看護学実習Ⅱ | 文化人類学 小児看護学概論 母性看護学総論 精神看護学総論 地域・在宅看護各論Ⅲ 老年看護学実習Ⅰ | 栄養学 基礎技術Ⅷ 地域・在宅看護各論Ⅱ 成人看護学各論Ⅱ～Ⅵ 老年看護学各論Ⅱ 小児看護学各論Ⅰ～Ⅲ 母性看護学各論Ⅰ・Ⅱ 精神看護学各論Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ | | | |
| 1 年 次 | 社会学 看護学概論 | 心理学 コミュニケーション理論 人間関係論 基礎技術Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ | 看護論セミナー 地域・在宅看護概論 成人看護学総論 老年看護学概論 地域・在宅看護論実習Ⅰ | 解剖学 生理学 生化学 看護人間工学 看護形態機能学 病理学各論Ⅰ～Ⅴ 微生物学 薬理学 基礎技術Ⅱ～Ⅶ 臨床看護総論 成人看護学各論Ⅰ 老年看護学各論Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ | 情報リテラシー 倫理学 課外授業 華道 | | 論理学 生涯学習入門Ⅰ |

5 段階別到達目標

| | 教育目標 | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
|---|--|---|---|---|
| 1 | 課題解決に向けて考え抜く力を発揮し、何事にも主体的に取り組む能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 支援を受けて課題を見出すことができる。 2) 課題解決の方法を知ることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 自ら課題を見つけることができる。 2) 課題解決に向けて、様々な方法（あらゆる角度から）を考えることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 困難な課題でも自らの持っている力を最大限発揮し、取り組むことができる。 2) 課題解決が困難であっても、最後まで諦めず解決方法を考えることができる。 |
| 2 | 社会の動向を敏感に捉え、看護に求められる役割を果たすことができる能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会の動向に関心を持つことができる。 2) 看護の基本的な役割を知ることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会情勢の変化を捉えることができる。 2) 看護の果たすべき役割を考えることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会情勢の変化を捉え、医療・看護に与える影響を考えることができる。 2) 社会の求めに応じて看護の果たす役割を考え行動することができる。 |
| 3 | 人間関係を形成するコミュニケーション能力、及び看護の実践に必要な臨床判断能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象に合わせてコミュニケーションの工夫ができる。 2) 対象の変化に気づくことができる。 3) 対象との関わりを振り返ることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 意図的なコミュニケーションが図れる。 2) 対象の状態の変化に気づくことができる。 3) 状況の変化に応じた対応を考え実施できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象とのコミュニケーションを分析し、人間関係を築く関わりであるかを評価できる。 2) 対象の状態や変化を意識して情報収集し、状況に応じた看護を判断し、根拠に基づいた援助を実施できる。 3) 自己の行った援助を振り返り、改善点を明確にするとともに自己の解釈・判断について省察できる。 |
| 4 | 広い視野と柔軟な思考を持ち、人間を多様な価値観を持つ生活者として、理解する能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活と健康の概念を知り、双方が及ぼす影響を考えることができる。 2) 人間を身体的・精神的・社会面を理解する必要性がわかる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活している流れの中で、健康と暮らしがどう関連しているかを考えることができる。 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面を持つ生活者として理解できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) あらゆる生活の場において、健康と暮らしがどのように関連しているかを考えることができる。 2) 人間を多様な価値観を持つ生活者として理解できる。 |
| 5 | 対象の健康と生活を守るために、根拠に基づいて判断し、その人に応じた看護を実践できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 問題解決のための手法を知ることができる。 2) 看護に必要な専門的基礎知識を習得できる。 3) 基本的な看護を実践できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護に必要な専門的基礎知識を活用し、その人に応じた看護を実践できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護に必要な専門的基礎知識を活用し、よりよい生活を導くための看護を実践できる。 2) 創意工夫した看護が実践できる。 |
| 6 | 実践と省察を繰り返し、看護を追求できる能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 支援を受けて自己の目標を設定し、自ら振り返ることができる。 2) 看護実践における省察の必要性が理解できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の目標を設定し、自ら振り返ることができる。 2) 看護実践から得られた結果を振り返り、次の実践に生かすことができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの振り返りを生かし、自己の目指すべき看護を追求できる。 |
| 7 | 常に看護専門職としての責任と高い倫理観に基づいたより良い行動ができる能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師の守備範囲、倫理綱領について知ることができる。 2) 他者の立場に立ち物事を考えることができる。 3) 報告・連絡・相談ができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師としての倫理観について考え、行動することができる。 2) その人にとっての尊厳を守るために行動ができる。 3) 適切なタイミングで報告・連絡・相談できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師としての責任を自覚し、高い倫理観を持って行動できる。 2) 対象の尊厳を守るためのより良い行動を考え、実践できる。 3) 状況に応じて自らの判断や考えを述べることができる。 |
| 8 | 保健・医療・福祉の連携において他職種の独自性を理解し、チームの一員として協働できる基礎的能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・福祉に関わる職種とその役割を知ることができる。 2) グループ活動を通して自己の役割を果たすことができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 多職種が連携する必要性を理解できる。 2) 多職種の役割を踏まえ、自分自身を明確にすることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 多職種の独自性を尊重し多様な場で生活する人々を支援するために協働する必要性が理解できる。 2) チームの一員として他者の意見を受け入れ、自己の傾向を理解し建設的意見を述べることができる。 |
| 9 | 看護専門職として探求心を持ち、持続的に自己研鑽ができる基礎的能力を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な学習習慣・学習方法を身につけることができる。 2) 自己研鑽の継続の必要性が理解できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の学びを他者と共有し、多面的に学ぶことができる。 2) 看護における自己研鑽継続の必要性と方法が理解できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々な方法を用いて学習し、多面的な学びを深化させることができる。 2) 看護実践において理論的知識や先行研究の成果を検索し、活用できる。 |

6 教育内容

| 教育内容 | | | 学則単位時間 | | 教育内容 | | | 学則単位時間 | |
|-------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|-------------|-------------|--------|----|
| | | | 単位 | 時間 | | | | 単位 | 時間 |
| 基礎分野 | 科学的思考の基盤 | 情報リテラシー | 1 | 15 | 専門分野 | 地域・在宅看護論 | 地域・在宅看護概論 ☆ | 1 | 15 |
| | | 情報科学 | 1 | 30 | | | 地域・在宅看護各論Ⅰ☆ | 1 | 30 |
| | 人間と生活・社会の理解 | 倫理学 | 1 | 30 | | | 地域・在宅看護各論Ⅰ☆ | 1 | 30 |
| | | 論理学 | 1 | 30 | | | 地域・在宅看護各論Ⅱ☆ | 1 | 30 |
| | | 社会学 | 1 | 30 | | | 地域・在宅看護各論Ⅰ☆ | 1 | 30 |
| | | 教育学 | 1 | 30 | | | 地域・在宅看護各論Ⅱ☆ | 1 | 30 |
| | | 心理学 ☆ | 1 | 30 | | 地域・在宅看護各論Ⅲ☆ | 1 | 30 | |
| | | コミュニケーション理論 ☆ | 1 | 15 | | 地域・在宅看護各論Ⅳ☆ | 1 | 15 | |
| | | 人間関係論 | 1 | 30 | | 成人看護学 | 成人看護学総論 ☆ | 1 | 30 |
| | | 文化人類学 | 1 | 30 | | | 成人看護学各論Ⅰ ☆ | 1 | 30 |
| | | 外国語Ⅰ | 1 | 30 | | | 成人看護学各論Ⅱ ☆ | 1 | 30 |
| | | 外国語Ⅱ | 1 | 30 | | | 成人看護学各論Ⅲ ☆ | 1 | 30 |
| | | 保健体育 | 1 | 30 | | | 成人看護学各論Ⅳ ☆ | 1 | 30 |
| | | 生涯学習入門Ⅰ ☆ | 1 | 15 | | | 成人看護学各論Ⅴ ☆ | 1 | 30 |
| 生涯学習入門Ⅱ ☆ | 1 | 15 | 成人看護学各論Ⅵ ☆ | 1 | 30 | | | | |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 解剖学 | 2 | 45 | 老年看護学 | | 老年看護学概論 ☆ | 1 | 15 |
| | | 生理学 | 2 | 45 | | 老年看護学各論Ⅰ ☆ | 1 | 30 | |
| | | 生化学 | 1 | 30 | | 老年看護学各論Ⅱ ☆ | 2 | 45 | |
| | | 看護人間工学 | 1 | 15 | 小児看護学 | 小児看護学概論 ☆ | 1 | 15 | |
| | | 看護形態機能学 ☆ | 1 | 15 | | 小児看護学各論Ⅰ ☆ | 1 | 30 | |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 病理学Ⅰ ☆ | 1 | 30 | | 小児看護学各論Ⅱ ☆ | 1 | 30 | |
| | | 病理学Ⅱ ☆ | 1 | 30 | | 小児看護学各論Ⅲ ☆ | 1 | 30 | |
| | | 病理学Ⅲ ☆ | 1 | 30 | 母性看護学 | 母性看護学総論 ☆ | 1 | 30 | |
| | | 病理学Ⅳ ☆ | 1 | 30 | | 母性看護学各論Ⅰ ☆ | 2 | 45 | |
| | | 病理学Ⅴ ☆ | 1 | 30 | | 母性看護学各論Ⅱ ☆ | 1 | 30 | |
| | | 微生物学 ☆ | 1 | 30 | 精神看護学 | 精神看護学総論 ☆ | 1 | 30 | |
| | | 薬理学 ☆ | 1 | 30 | | 精神看護学各論Ⅰ ☆ | 2 | 45 | |
| | | 臨床薬理学 ☆ | 1 | 15 | | 精神看護学各論Ⅱ ☆ | 1 | 15 | |
| | 栄養学 ☆ | 1 | 30 | 看護の統合と実践 | 看護管理 ☆ | 1 | 15 | | |
| 健康支援と社会保障制度 | 社会福祉 ☆ | 2 | 45 | | 安全・感染管理 ☆ | 1 | 30 | | |
| | 関係法規 | 1 | 15 | | 災害看護・国際看護 ☆ | 1 | 15 | | |
| | 公衆衛生学 ☆ | 1 | 30 | 緩和ケア ☆ | 1 | 15 | | | |
| | 保健医療論 ☆ | 1 | 15 | 統合技術演習 ☆ | 1 | 30 | | | |
| | 地域保健活動論 ☆ | 1 | 15 | 臨地実習 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 看護学概論 ☆ | 1 | | 30 | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 90 | |
| | | 看護論セミナー ☆ | 1 | | 15 | 地域・在宅看護論実習Ⅰ | 1 | 30 | |
| | | 基礎技術Ⅰ ☆ | 1 | | 30 | 地域・在宅看護論実習Ⅱ | 2 | 90 | |
| | | 基礎技術Ⅱ ☆ | 1 | | 30 | 成人看護学実習Ⅰ | 2 | 90 | |
| | | 基礎技術Ⅲ ☆ | 1 | | 30 | 成人看護学実習Ⅱ | 2 | 60 | |
| | | 基礎技術Ⅳ ☆ | 1 | | 30 | 成人看護学実習Ⅲ | 2 | 90 | |
| | | 基礎技術Ⅴ ☆ | 1 | | 30 | 老年看護学実習Ⅰ | 2 | 60 | |
| | | 基礎技術Ⅵ ☆ | 1 | | 30 | 老年看護学実習Ⅱ | 2 | 90 | |
| | | 基礎技術Ⅶ ☆ | 1 | | 30 | 小児看護学実習 | 2 | 60 | |
| | | 基礎技術Ⅷ ☆ | 1 | | 30 | 母性看護学実習 | 2 | 60 | |
| | | 基礎技術Ⅷ ☆ | 1 | | 30 | 精神看護学実習 | 2 | 90 | |
| 臨床看護総論 ☆ | 1 | 30 | 統合と実践実習 | 2 | 90 | | | | |
| 合計 | | | | | | 106単位 | 3015時間 | | |

「教育内容」☆印:実務経験のある教員等による授業科目

7 履修方法

履修方法は、次の3つです

- (1) 講義 専任教員や外部（大学・病院等）講師から看護に必要な知識を学習します。
- (2) 演習 学内において、看護に必要な器具の取り扱いや、患者の援助技術を習得します。
- (3) 実習 病院や施設等の臨地において、実践的な看護の知識・技術・態度を習得します。

8 単位及び時間数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、履修の方法に応じて次の基準により計算します。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間をもって1単位とします。
- (2) 臨地実習については、30時間から45時間をもって1単位とします。
- (3) 講義及び演習の1時間は45分とし、臨地実習の1時間は60分とします。
- (4) 科目ごとの単位数・時間数はp8に記載しています。

9 教育内容と履修時期及び評定方法

| 教育内容 | | 学則単位時間 | | | | 年次・学期・単位 | | | | | | 評定方法 | | | | | | | | |
|---------|---------------|-------------|----|----|----|----------|----|-----|----|-----|----|------|------|------|-----|----|-----|---|---|---|
| | | 単位 | | 時間 | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 筆記試験 | 論文提出 | 口述試験 | 記録物 | 実技 | その他 | | | |
| | | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | |
| 基礎分野 | 科学的思考の基盤 | 情報リテラシー | 1 | 15 | 15 | 390 | ○ | | | | | | | | ○ | | ○ | | | |
| | | 情報科学 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | | ○ | |
| | 人間と生活・社会の理解 | 倫理学 | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 論理学 | 1 | 30 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ |
| | | 社会学 | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 教育学 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| | | 心理学 | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | コミュニケーション理論 | 1 | 15 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 人間関係論 | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 文化人類学 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 外国語 I | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 外国語 II | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 保健体育 | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ |
| | | 生涯学習入門 I | 1 | 15 | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | ○ |
| | | 生涯学習入門 II | 1 | 15 | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 解剖学 | 2 | 45 | 22 | 525 | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 生理学 | 2 | 45 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 生化学 | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 看護人間工学 | 1 | 15 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 看護形態機能学 | 1 | 15 | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | ○ | |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 病理学 I | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 病理学 II | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 病理学 III | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 病理学 IV | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 病理学 V | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 微生物学 | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ |
| | | 薬理学 | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 臨床薬理学 | 1 | 15 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| | 健康支援と社会保障制度 | 栄養学 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| | | 社会福祉 | 2 | 45 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| 関係法規 | | 1 | 15 | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| 公衆衛生学 | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| 保健医療論 | | 1 | 15 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 地域保健活動論 | 1 | 15 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 看護学概論 | 1 | 30 | 11 | 315 | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | |
| | | 看護論セミナー | 1 | 15 | | | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | | 基礎技術 I | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 基礎技術 II | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 基礎技術 III | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | ○ |
| | | 基礎技術 IV | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 基礎技術 V | 1 | 30 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 基礎技術 VI | 1 | 30 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| | | 基礎技術 VII | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 基礎技術 VIII | 1 | 30 | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | |
| | | 臨床看護総論 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | ○ | | |

| 教育内容 | | 学則単位時間 | | | | 年次・学期・単位 | | | | | | 評定方法 | | | | | | | | | | | |
|------------------|----------|-------------|--------|----|----|----------|----|-----|----|-----|----|----------|----------|----------|---------|----|-----|---|---|---|---|---|--|
| | | 単位 | | 時間 | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 筆記 試験 | 論文 提出 | 口述 試験 | 記録 物 | 実技 | その他 | | | | | | |
| | | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | | | |
| 専 門 分 野 | 地域・在宅看護論 | 地域・在宅看護概論 | 1 | 15 | 34 | 855 | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | |
| | | 地域・在宅看護各論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域・在宅看護各論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | 地域・在宅看護各論Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | 地域・在宅看護各論Ⅳ | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | 地域・在宅看護各論Ⅴ | 1 | 15 | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| | 成人看護学 | 成人看護学総論 | 1 | 30 | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 成人看護学各論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 成人看護学各論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 成人看護学各論Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 成人看護学各論Ⅳ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 成人看護学各論Ⅴ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | |
| | 老年看護学 | 老年看護学概論 | 1 | 15 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 老年看護学各論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 老年看護学各論Ⅱ | 2 | 45 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 小児看護学 | 小児看護学概論 | 1 | 15 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | ○ | | |
| | | 小児看護学各論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 小児看護学各論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | ○ | | |
| | | 小児看護学各論Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| | 母性看護学 | 母性看護学総論 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 母性看護学各論Ⅰ | 2 | 45 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 母性看護学各論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| | 精神看護学 | 精神看護学総論 | 1 | 30 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 精神看護学各論Ⅰ | 2 | 45 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 精神看護学各論Ⅱ | 1 | 15 | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| | 看護の統合と実践 | 看護管理 | 1 | 15 | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 安全・感染管理 | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 災害看護・国際看護 | 1 | 15 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | | 緩和ケア | 1 | 15 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | | 統合技術演習 | 1 | 30 | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| | 臨地実習 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | | 24 | 930 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | |
| | | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 90 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 地域・在宅看護論実習Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 地域・在宅看護論実習Ⅱ | 2 | 90 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | |
| 成人看護学実習Ⅰ | | 2 | 90 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 成人看護学実習Ⅱ | | 2 | 60 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 成人看護学実習Ⅲ | | 2 | 90 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 老年看護学実習Ⅰ | | 2 | 60 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 老年看護学実習Ⅱ | | 2 | 90 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 小児看護学実習 | | 2 | 60 | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | |
| 母性看護学実習 | | 2 | 60 | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | |
| 精神看護学実習 | | 2 | 90 | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | |
| 統合と実践実習 | | 2 | 90 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | |
| 合計 | | 106単位 | 3015時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

* 論文提出とは論文、レポートのことを指します。記録物とは提出物、ワーク用紙のことを指します。

Ⅲ 単位の認定

各授業科目及び臨地実習の所定時間数を出席して、その試験に合格した者に対して単位を認定する。

1 科目の評価

- (1) 講義・演習は、筆記試験、技術試験及び看護過程評価表等の得点により評価します。
- (2) 臨地実習は、「看護学実習要綱」に定める評価表の評点により評価します。
- (3) 各科目を100点満点として、次表の「C」以上を合格、「D」を不合格とします。

| A | B | C | D |
|-------|-------|-------|-------|
| 80点以上 | 70点以上 | 60点以上 | 60点未満 |

2 試験

- (1) 試験は、科目終了後に行います。ただし、授業時間の多い科目は中間試験を行うこともあります。
- (2) やむを得ない理由により試験を受けられなかった者は、追試験（臨地実習においては追実習）を受けることができます。
- (3) 本試験及び追試験の不合格者は、1回に限り再試験（臨地実習においては再実習）を受けることができます。
- (4) 追試験または再試験を受ける学生は、「再（追）試験願」を提出し、校長の承認を得る必要があります。
- (5) 追試験（追実習）の評価は、その点数から2割を減じた点数を評点として、60点以上を合格とします。
- (6) 再試験（再実習）の評点は、60点以上を合格とします。その点数が60点を超える場合にも、その点数を60点とみなします。
- (7) 再試験（再実習）の結果が不合格の場合、その科目は未認定になります。この場合、原則、翌年度に再履修することになります。

3 入学前の修得単位の認定

本校の入学前に大学や専門学校等で修得した者の単位については、その学習内容が本校の教育内容に相当するものと認められる場合に、本校の履修に替えることができます。認定については、本人からの申請に基づいて、本校学則第11条に定めるとおり行います。該当する場合は、入学後直ちに申し出てください。

4 補習

やむを得ない理由で、講義・実習を欠席したものについては、申し出により、担当教員の許可を得て補習を受けることができます。